

第438回大野市議会定例会 教育長所信表明

本日、令和6年3月第438回大野市議会定例会の開会に当たり、教育行政につきまして、その所信を述べる機会をいただき、深く感謝申し上げます。

本年1月1日に能登半島地震が発生しました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々の一日も早い復旧、復興、そして、子どもたちの生活環境が一日も早く改善されますよう心からお祈り申し上げます。

こども政策の新たな司令塔となる「こども家庭庁」の設置とこども施策に関する基本理念や施策の基本となる事項などを定める「こども基本法」が施行され、1年近くが経とうとしています。

そのような中、国は昨年12月に、全てのこども・若者が身体的・精神的・社会的に幸せな状態、すなわちウェルビーイングで生活を送ることができる「こどもまんなか社会」の実現を目指し、「こども大綱」を閣議決定しました。

こども大綱には、日本国憲法やこども基本法、こどもの権利条約の精神にのっとり、こども・若者の今とこれからの最善の利益を図る、全てのこども・若者が幸せな状態で成長できるようにするなどの基本の方針が定められています。

本市は、主体性を生かした保育の実施や放課後の児童の居場所づくり、幼児教育から学校教育への接続、要保護児童への支援など、子ども・子育て支援から学校教育までを、教育委員会が3年前から一括して取り組んでいます。

新年度も、引き続き、子育てと学びに一体的に取り組む、生まれてから高校卒業までの18年間をつなぐ教育を実現していきます。

中でも重要な位置付けとなる学校再編が、中学校2校体制で本年4月から目に見える形となります。学校再編を機に、本市の総合的な教育環境の整備を慎重に丁寧に着実に進めていきます。

それでは、新年度の教育行政の考え方と主な施策の概要について、本市の教育に関する大綱に掲げる項目に沿って申し上げます。

まず、第1の項目、子育てについてです。

新年度は、計画期間を令和6年度までとしている第2期子ども・子育て支援事業計画を改定します。令和7年度から5年間の計画期間とし、子どもや若者に関する方向性を示す「(仮称)大野市子ども・若者計画」の策定に取り組めます。子ども・子育て支援法と次世代育成支援対策推進法に基づく現計画に、新たに「子どもの貧困対策」と「子ども・若者育成支援」の視点を加えた計画とします。

計画の策定に当たっては、「大野ですくすく子育て応援パッケージ」の評価を行い、ニーズ調査の結果を反映し、子どもや若者の意見を聴きながら、市長部局と連携を図り取り組んでいきます。

子ども・子育て支援に関する情報発信を強化するため、「結婚・子育てハンドブック」を作成するとともに、「こどもまんなか」な取組みの一環として、屋内型子どもの遊び場の完成にあわせて、親子連れに優しい飲食店の情報発信に取り組めます。

令和6年4月の「こども家庭センター」の設置に当たり、健康長寿課からこども支援

課に専門職である保健師と管理栄養士を配置替し相談体制を充実させます。

出産や育児をスタートさせる妊産婦や乳児に対する相談支援と児童福祉に関する相談支援を一体的に行うことで、母子保健と児童福祉の両機能の連携、協働を深め、子育てに不安を抱える家庭に対して、切れ目なく、気軽な相談に応じていきます。

保育所や認定こども園への入所率が90%を超える本市において、教育・保育サービスの質と量を持続させることは、働きながら子育てをする世代、今から子どもを産み育てようとする世代の就労環境の確保に欠かせないものです。

その土台となる保育人材の確保のため、公立・民間の区別なく、関連する情報を一元化して発信を強化し、潜在保育士の復職などを促進していきます。

また、授業日は「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」で、長期休業中は「学びと遊びと体験の広場」で、1年を通した子どもの居場所づくりに引き続き取り組みます。

次に、第2の項目「学び」について申し上げます。

まず、「中学校の新体制」については、本年度まで、万全の準備を整えてきました。

3月には、上庄中学校、尚徳中学校、和泉中学校の統合記念式典を挙るとともに、式典後には、上庄中学校区と尚徳中学校区の区長会や関係団体などで構成する実行委員会による記念碑の除幕式や記念イベントなどが開催されます。

各学校ともにこれまでの伝統と文化を大切に、有終の美を飾って頂きたいと願っています。

新開成中学校、新陽明中学校においては、在籍する生徒たちが、いち早く新体制に慣れ、楽しく生き生きと学校生活を送れるよう学校と教育委員会が緊密に連携し注意深く見守っていきます。

両中学校及び下庄小学校は、引き続き改修を進め、児童生徒に充実した教育環境を整備するとともに、安全・安心で快適な学校生活を送ることができる未来志向の学び舎づくりを進めていきます。

また、有終西小学校に続き、新年度は、有終東小学校の通学区域について、審議会を設置し調査審議していきます。

「魅力ある学校づくり」については、その実現に向けて、「確かな学力を育む学校づくり」と「安心して通える学校づくり」の2本の柱を掲げて取り組んでいます。

「確かな学力を育む学校づくり」については、小学校を対象とした大野市独自の学力調査を引き続き実施し、国や県の調査を含め、小中学校の全学年で学力を把握できる体制を維持します。調査結果をもとに、教員の授業改革と指導力向上を図り、児童生徒の学力の確実な定着につなげていきます。

また、「学ビバ」と称した教員が学び合うことのできる場の提供や、福井大学教授による授業アドバイザーとしての学校訪問、福井大学教職大学院への教員派遣など、学校にしながら教員がスキルアップできる仕組みを充実させます。

また、福井SDGsパートナーやおおのSDGsパートナー連絡協議会の一員として、ふるさと大野に学び、大野から発信できる子どもを育成します。

その成果の一端として、福井県教育委員会主催のふるさと福井の魅力プレゼンテーション大会で、阪谷小学校が大賞を受賞しました。また、ふるさと福井CMコンテストで

は、和泉小学校が最優秀賞を、小山小学校が優秀賞を、阪谷小学校が奨励賞を受賞しました。

全国中学生作文コンテストで、陽明中学校の芦原奈那美さんが法務省人権擁護局長賞を受賞しました。

さらに、阪谷小学校教職員の皆さんが地域連携・協働が評価され優秀教職員表彰を受賞しました。

子どもたちが、ふるさと大野を愛し、心豊かに育ってくれていることを大変嬉しく思いますとともに、それを支える教職員も一丸となって魅力ある学校づくりに取り組んでいることに心から敬意を表します。

「安心して通える学校づくり」については、不登校の未然防止を目的に、学校の総合力を上げる取り組みを進めています。

児童生徒が自己存在感や充実感を感じられる「居場所づくり」と、児童生徒が主体的に取り組む「絆づくり」により、「学校が楽しい」と思える学校づくりを推進していきます。

不登校の兆しが見え始めた児童生徒に対しては、結の故郷教育支援員や相談員、スクールソーシャルワーカー、関係機関とも連携を図りながら、教室以外でも安心して過ごせる場や学べる環境をつくり支援していきます。

「コミュニティ・スクール」については、本年度、保護者や地域住民などの学校運営への参画を推進するため、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づく「学校運営協議会」を全小中学校に設置し、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていく体制を整えました。

新年度は、コミュニティ・スクール推進事業のモデル校である有終南小学校グラウンドの芝生化整備を支援していきます。

休日の部活動の地域移行については、令和4年度から実証事業を実施している軟式野球、サッカー、バスケットボールの運動部活動3競技に、本年度10月から文化部活動の吹奏楽を加え、休日の部活動を地域クラブに移行できるよう進めてきました。

新年度は、陸上、バレーボール、卓球、バドミントン、ソフトテニスの運動部活動5競技も実証事業に取り組み、休日に活動するすべての部活動が、運動部は夏季大会終了後、文化部は発表会終了後には地域クラブに移行し、生徒がそれぞれ適した環境で活動を行うことができるよう、関係団体の協力をいただきながら進めていきます。

次に、第3の項目「ひと・地域」について申し上げます。

生涯学習については、令和4年に策定した「大野市生涯学習推進計画」に基づき、生涯学習センター、公民館などでさまざまな講座や交流活動の実施、生涯学習情報の発信を行っています。本年度から、ご自身の受講記録を記載する「生涯学習講座手帳」を配布しました。より多くの講座を受講された方を表彰することで、受講意欲を高め、新たな学びにつなげていただこうと約400冊配布しました。

資格取得や技能のスキルアップにつながる講座では、人生100年時代を生きる市民の学び直しの視点を重視して実施し、本年度の受講者数は、昨年度に比べ約2倍となっています。

家庭教育や青少年教育、ひとづくり講座では、より幅広い年齢層の方に受講していた

だけるよう市民ニーズの高い「健康」や「暮らし・生活」に関する視点を加えて実施しました。

また、インターネットを活用して講座や講演会などを公開し、当日、会場に来られない方が気軽に視聴できるようにしました。これらの講座は、現在も視聴できるようにしています。

加えて、中学生を対象に、インターネットを活用した国際交流講座を上庄中学校で開催しました。本市出身でアラブ首長国連邦のドバイにお住まいの方を講師にお願いし、オンラインで現地の気候や風土、学校生活などについてお話しいただきました。生徒たちは、身近な講師からのグローバルな話に刺激を受け熱心に聞き入っていました。

先般開催しました生涯学習フォーラムにて、年間を通し数多く受講された方に単位認定書をお渡ししました。

新年度も、生涯学習に関する情報を積極的に発信し、自分に合った学びを行いながら「いきいき」「わくわく」と暮らせるよう、市民一人一人の生涯学習の充実を図っていきます。

「こどもの読書活動」については、第四次大野市子ども読書活動推進計画に基づき、子どもの読書活動を推進するに当たり、本年度は、特に若い世代を中心に図書館をより身近に感じてもらうと、図書館キャラクター「おとしょちゃん」のLINEスタンプを作成しました。日常生活でよく使うあいさつや仕草など16種類のかわいいスタンプがあり、広報おのなどで周知し販売しています。

また、小・中学校、高等学校へ毎月、図書館のお薦めの本を届ける「おとしょちゃんのうきうきお届け便」を継続して実施するとともに、市民が集う事業所などに対しても貸出を行いました。「おとしょちゃん」や今年の干支の龍をデザインしたお守り袋を図書館職員が作成し、お薦め図書とセットにした「お楽しみ袋」も多くの方に喜んで頂きました。

次に、第4の項目「文化芸術」については、「化石」について申し上げます。

千葉県立中央博物館の伊左治鎮司博士が、平成22年度に本市下山の手取層群伊月層より発見した小型巻貝の化石を、絶滅した巻貝のグループであるプロバイカリア属の新種として、論文に発表しました。この研究成果は、前期白亜紀の福井県の環境がどのように推移したのかを読み解く手掛かりとなり、本市における化石研究の重要性を示すものです。

化石標本は、今月、発見者から寄贈を受けましたので、来月16日のくずりゅう化石ラボガ・オーノの再開に合わせて展示する予定です。今後も調査研究を進め、本市の化石がもつ学術的な価値を高めるとともに、化石産地の保護と活用を図っていきます。

以上、本市の教育行政の考え方と主な施策の概要について、述べさせていただきました。

議員各位のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます、所信表明とさせていただきます。